

令和4年度 文京区立昭和小学校 授業改善推進プラン

第6学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○文章を最後まで読み、概要を正しく把握することが難しい。 ○自分の考えや思いを筋道立てて話す力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主語・述語・目的語を意識して読む。 ○文章や人の話に対し自分の意見をもち、言葉でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一問一答形式の簡単な発問を繰り返したり、児童から児童へと発言がつながる発表の形式を多く取り入れたりする。 ○把握した内容をまとめ、それに対する自分の立場を明確にし、理由を説明する、という手順を形式化して定着させる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○社会的事象に対する興味・関心が高い児童が多い。 ○資料の中から情報を精査したり、それらを活用してまとめたりすることが得意な児童と苦手な児童が二極化している。 ○社会的事象・歴史的事象に対して自分の考えをもつことが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童に「なぜ」「どうして」という問いをもたせる工夫を行うことや、児童が主体的に活動を行えるように学習過程の工夫を行い、さらに興味・関心高く学習できるようにする。 ○得意な児童の手本を全体共有したり、対話的な活動を増やしたりすることによって、全体の力を底上げしていく。 ○社会的事象に対して考える機会を増やす。また、個々が考えたことを話し合うことで、様々な考えに触れられるようにすることで思考力・判断力・表現力を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が問いをもてるような教材や資料を準備し、より効果的な資料提示を行う。また、予想を考えたり、学習計画を立てたりすることを丁寧に行い、見通しをもち、主体的に学習できるようにする。 ○個別に課題解決する時間や交流する時間をそれぞれ確保し、対話的に課題解決をできるようにする。 ○事実を読み取り、理解する時間、その事実から自分の考えをもち、交流する時間をそれぞれ確保することで社会的事象に対する自分の考えをもてるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○知識は豊富だが、考え方の根拠を問われると答えられない児童が多い。また、自分の考えに固執してしまう児童がいる。 ○算数の言葉を使い、筋道立てて説明することが苦手である。また、他者の考えを受け入れるのが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項と関連づけて、根拠を基に筋道を立てて考える。 ○他者の考えを受け入れ、よいところを自分の考えや表現に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項を思い出させるような導入や発問をする。 ○知識をそのまま使うのではなく、なぜ使うことができるのかを理解できるようにする。 ○習熟度の低いコースでは、手順と一緒に確認するなどして、説明をする前に自信がもてるようにする。習熟度の高いコースでは、誰のどんな説明がよかったのか考えさせ、次回にいかせるようにする。 ○ペアや少人数のグループになり、考えを説明し合う。それからもう一度自分の考えを見直すことで、判断力・表現力を伸ばす。

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
理科	<p>○知識は豊富で、理解力も高いが、知識と生活事象とを結びつけて考えることが難しいときがある。</p> <p>○課題解決のために、実験や観察をした結果から考察し、読み取る力を向上させたい。</p>	<p>○学習の内容が、身近な現象と、どう関わっているのかを理解させるために、児童の身近にあること、興味関心のあることを取り上げ、理解を深めていく。</p> <p>○結果から考える時間を十分にとり、児童の考えがまとまってから、話し合いの時間をとる。他者の考えに触れ、様々な意見に触れられるようにする。</p>	<p>○実際に実験する、観察する、体験することを大事にする。また、児童の経験してきたことと学習事項とを丁寧に照らし合わせるようにし、理解を深めさせる。</p> <p>○予想と結果と照らし合わせ、結果から分かることを全体で確認してから考察に入る。また、自分の考えをもとに、友達との考えを比較したり、共通部分を見つけたりしながら考察することで、よりよい結論を導き出せるようにする。</p>
体育	<p>○様々な運動感覚が身に付いていない児童が多く、技能に個人差が大きい。</p> <p>○自分の課題にあっためあてを立てて、運動に取り組むことが難しい。</p>	<p>○補助運動の場を設定したり、基礎感覚作りの時間を設けたりし、楽しみながら様々な運動感覚が育つようにする。</p> <p>○振り返りを書く際は、個人のめあてと関連させ考察し、次時の運動に取り組む姿勢を高める。</p>	<p>○児童が楽しみながら活動することが補助運動を多く取り入れる。</p> <p>○学習カードに個人のめあてと振り返りを記入する欄を設ける。</p>
音楽	<p>○概ねの児童が前向きな学習態度で取り組んでいるが、積極的に前に出て自分の考えを発表したり、自信をもって人前に出て一人で歌ったり演奏したりできる児童が少ない。</p> <p>○合奏を好む児童が多く、楽器の編成や楽器の数などを自分たちで考え進めていくような学習の際に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>○鑑賞などで楽曲を聴いて感じ取ったことを文章にする力が高まってきているが、感じ取ったことと聴き取ったことを結びつけて考える力はまだ十分ではない。</p>	<p>○学習のきまりをしっかりと身に付けさせ、定着させる。</p> <p>○感染症対策の状況に応じて、リコーダー等の練習機会を設けるとともに、演奏・歌唱の技能の向上を図る。また、楽曲の分析を通して、「どのように演奏・歌唱したいか」という思いや意図をもって活動できるようにする。</p> <p>○楽曲を聴いて音楽を形作っている要素を聴き取り、楽曲の構造や特徴、その良さを理解することができるようにする。</p>	<p>○課題に対しての達成感をもたせるために具体的なめあてを設定するとともに、児童が自己肯定感を高めることにつながる活動内容や声掛けをしていく。</p> <p>○基礎的な表現の能力を高めるとともに、主体的に活動し、音楽表現の喜びを味わえるように指導を工夫する。</p> <p>○聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考える経験を多くもたせるとともに、音楽的語彙力を高め、表現に生かせるようにする。また、課題の評価の観点を明確にし、指導内容の定着を図る。</p>
図工	<p>○意欲的に取り組んでいる児童が多いが、細部まで丁寧に時間をかけて取り組むのが苦手な児童もいる。</p> <p>○豊かに発想できる児童も多いが、完成までの見通しをもって、計画的に取り組むのが苦手な児童もいる。</p>	<p>○細部まで丁寧に取り組んでいる児童の作品を見合う時間を設ける。</p> <p>○授業の中で適時、進捗状況の確認を行ったり、振り返りカード等で気になった児童には適時声かけを行ったりする。</p>	<p>○授業の導入、途中、振り返りの時間等で、丁寧に取り組む大切さを強調して指導する。</p> <p>○時間内に完成するように、見通しをもって活動することの大切さも、授業の中で適時指導する。</p>

家庭	<p>○手縫いやミシン縫いの実習では楽しみながら実習を行い、意欲的に作業できる児童が多い。</p> <p>○家族の一員として、授業で学んだことを家庭で実践しようとする態度が育っている。しかし、家庭での実践や生活経験が乏しいため何から始めたらいいのか分からない児童も見られる。</p> <p>○ミシンや裁縫道具の正しい使い方が身につけていない児童が多くいる。基礎基本を身に付けることが課題である。</p> <p>○調理実習ができない状況が続いている。年間指導計画を入れ替えながら家庭と連携し家庭学習で調理に取り組ませるなどの工夫が必要である。</p>	<p>○家族の一員としてできることを増やしたり、レベルを上げたりすることをめざせるようにする。</p> <p>○自分の力で粘り強く課題解決に向けて取り組めるように学習内容を工夫する。また、基礎基本を身に付けられるように反復練習する時間を設ける。</p> <p>○調理の学習については、今後も継続して家庭と連携し、家庭学習に取り入れる。</p>	<p>○日常生活との関連を意識させる。また、家庭でも「やってみよう」と思えるような授業づくりをする。そのために、児童が想像しやすい日常の具体例を学習課題に取り上げたり発問を工夫したりする。</p> <p>○制作では、自分にできること、できないことを正しく理解し、自分の課題を見出せるようにする。めあてを個人で設定し、自分の目標を達成するために主体的に学習できるように指導を工夫する。</p> <p>○調理の技能を高めるために、家庭と連携する。長期休暇などに家庭で実践できるよう計画的に課題作りを行う。</p>
外国語	<p>○聞く力に優れている児童が多いが、人前で自分の言葉で話したり発表したりすることに課題がある。</p>	<p>○スモールステップを多く設定し、十分練習する時間を設け、自信をもって発表できるようにする。</p> <p>○教え合いや交流の機会を設け、全体で語彙力・表現力を向上させる。</p>	<p>○恥ずかしがらずに、英語を口に出すこと、練習することで、上達を感じ、楽しみながら、英語の音に慣れさせる。</p> <p>○技能の高い児童が、聞き手に分かりやすく、話したり、発表したりできるようにする。</p>